

防災・避難所機能について

防災・避難計画

災害時の対応方法について

- 災害時の施設開放計画について(*別紙校舎の避難スペース・避難する際の動線計画についてを参照)
- ・避難者のプライバシー確保や共同生活をスムーズに行えるよう、特に高齢者や女性、外国籍の方たちに配慮した防災計画とします。
- 災害時 - 講堂、校舎D棟1階多目的室及び11教室以上の教室を速やかに開放するとともに、自動車整備専門学校利用時には、1階実習室含め、最大限被災者を受け入れられるように可能な限り使える室は開放する計画とします。

○災害時の解説・施設に関して

- 平日(勤務時間内) - 学校職員が対応
- 土日祝日・平日(勤務時間外) - 連携体制にある「生野南ふれあい協議会」及び「生野区役所担当者」に事前にスペアキーを配付し、地域の皆さまと連携を取り災害時には速やかに開放できる計画とします。

○災害時に避難所になる室の備品移動方法を記載した設営マニュアルの制作

- ・避難所として開放するスペース
平常時に利用する机・椅子・什器備品等は全て可動式のものとします。
- ・避難所として開放すべきスペースから除く箇所
運営上最低限必要となる精密機器を設置している部屋及び運営上必要とする管理スペースとなります。

生野南小学校災害対応マニュアルの作成

○風水害等による災害に対する災害マニュアル

避難所の設営や運営を行政が執り行い、それらを運営者が協力する体制を事前にまとめます。

○突発的な災害に対する災害マニュアル

運営者及び生野南ふれあい協議会等の地域団体が協力し、避難所の設営や運営をマニュアルとしてまとめ、地域の皆さまと共有することで災害に備えます。



防災・避難についての考え方

○防災×学び

防災訓練の活動を様々な年代の地域の皆さまや他国籍の皆さまと一緒に「体験し、学ぶ」こと自体が、この地域における新しい「学び」の機会の場になるとを考えます。専門学校や通信制高等学校の学生と地域の皆さまが一緒になって防災訓練を行うことは、災害時の意思疎通による訓練(学び)になるだけでなく、地域の皆さまとのコミュニケーションの機会を作ることになります。

○防災グッズ等の備蓄

災害時に速やかにマニュアルに沿った対応が可能となるよう、防災グッズ等は、可能な限り学校に保存・管理できる計画とします。また、遊びの中で防災について学べるグッズなど、平時から災害時を意識して活用できるグッズ等を備えます。



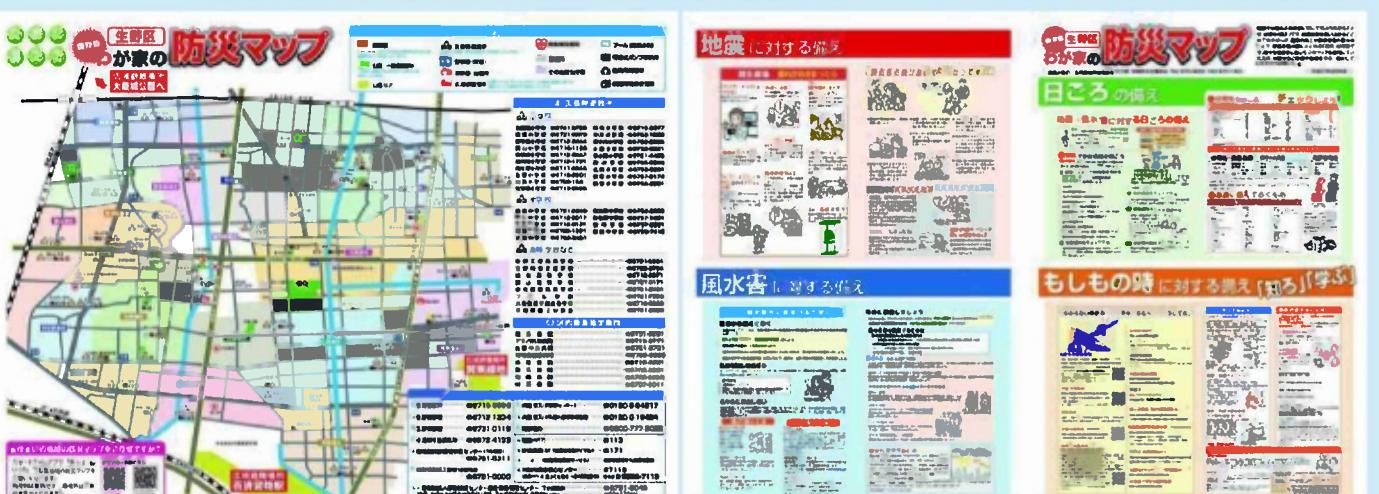
地域・生野区と連携した防災活動

○防災×地域コミュニティ

災害時に地域の皆さまが、安心して校舎を防災拠点として利用できるように、地域の皆さまと一緒に「生野南ふれあい協議会防災マップ」をベースに、防災訓練を定期的に実施します。専門学校や通信制高等学校の開催時期には、生野南ふれあい協議会や生野区、各協力組織と連携を図り、学生と地域の皆さまが一緒に防災について、学び、体験し、共有できる場を設けます。

○生野区、運営者、地域の皆さまの3者が連携を図った避難訓練の定期開催の実現

生野区や生野南地区で行ってきた防災訓練と学校側で行う防災訓練を連携して行っていくことで、災害時に避難所としての学校の具体的な運用方法(仮設パーテーションの設置などの訓練や「わが家の防災マップ」の活用、「きずなネット」構築など、皆で認識し考える場を設けていきます。



避難所について

避難所の計画について

多文化に配慮した避難所の計画

旧生野南小学校周辺の地域性に応じて様々な文化に対応した避難所の計画とします。

例:宗教に対応した祈りの空間の整備及び専用の室を設けることで誰でも受け入れる避難所の計画とする。

NPO法人ボランタリー・アーキテクツ・ネットワーク(VAN)

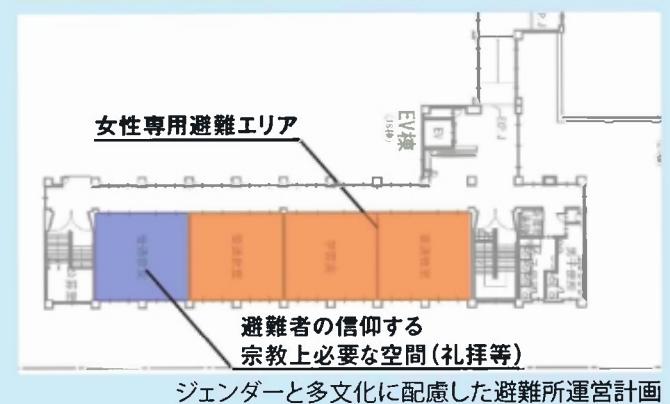
これまでに国内外問わず、様々な被災地に紙管による仮設パーティションの提供を行っています。2018年に大阪府とは、避難所用間仕切りシステムの供給に関する災害協定を結んでいるため、府内での災害時には、紙管を提供頂ける関係にあります。

○VANと連携した防災に関する取り組み

私たちは、VANと連携を図ることで、生野区での防災訓練時に紙管による仮設パーティションの組み立てレクチャーや実際の空間を体験することが出来る訓練を行います。併せて、小学校内に常時一定数の紙管を保管しておくことが出来るよう区に働きかけを行います。

○ジェンダーに配慮した避難所運営に関する講習と計画の提案

女性専用避難室を用意する等の避難所で問題となるジェンダー問題に対して配慮した避難所の計画とします。



発災時における地域開放食堂の活用について

○発災時に地域開放食堂を開放

発災時には地域開放食堂を活用し、炊き出しを行う事で安定した避難所の運営を可能にします。また、生野区や生野南ふれあい協議会と連携し、炊き出しを想定した訓練を行います。



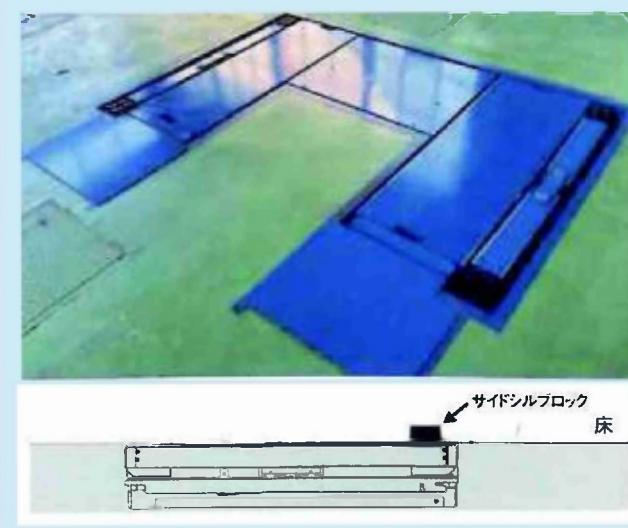
自動車整備専門学校の避難所として開放可能な室について

災害時の実習室について

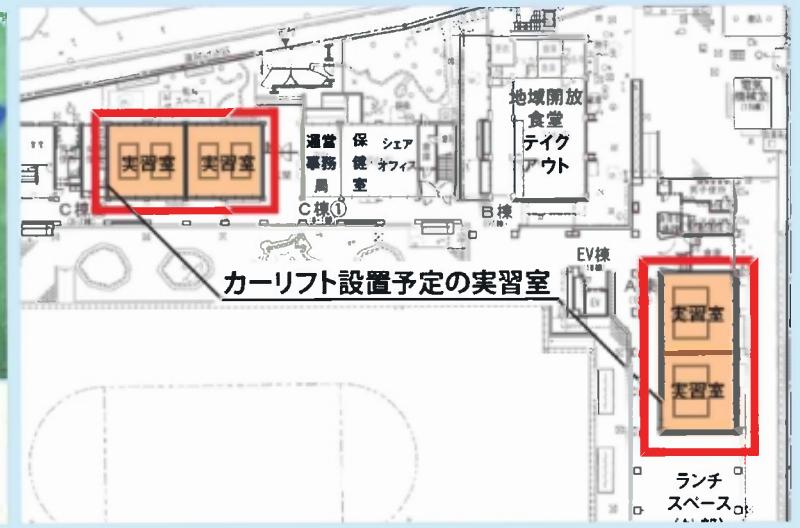
実習室にある備品は移動可能なものを選定しており、災害時には備品等が散乱しないよう対策をするため、一時避難場所として開放することができます。

○一階実習室も災害時に地域に開放することが可能な計画

カーリフトを配置している1階部分の実習室は、災害時に実習車両を室外に移動させる事で最大限避難所として利用出来るスペースを確保する計画とします。また、自動車整備の授業にて必要なカーリフトに関しては床面に対して水平になる仕様のものを使用するため一時避難が可能なスペースとなります。



カーリフトの製品イメージ



カーリフトが配置される予定の実習室

